

社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

<p>代表者氏名 (ふりがな)</p>	<p>岡林 春雄 (おかばやし はるお)</p>	<p>所属</p>	<p>山梨大学教育人間科学部</p>
<p>研究集会等名称</p>	<p>社団法人日本心理学会・ダイナミカルシステム研究会</p>		
<p>成果概要</p>	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 22 名 (うち認定心理士 2 名) 非会員 9 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 実施内容： 日本心理学会第75回大会 (日本大学、9月15日) において、 WS026 「複雑系としての渋滞とそのメカニズム」</p> <p>を実施。西成活裕氏 (東京大学 先端科学技術センター) から高速道路、一般道路における渋滞のメカニズムについて話題提供があった。「渋滞＝流量が減少すること」ととらえ (高速道路では 25 台/km が分岐点)、$Q = \lambda \rho$: Qは流量、ρは密度 が成り立つ。速度より流量で見た方が、渋滞開始がわかりやすい。渋滞は、道路以外でもネット渋滞、神経細胞の渋滞、駅での人の流れの渋滞、等々でも見られ、道路の渋滞と同じメカニズムをもっている。しかし、アリは渋滞しない。これは何故なのか、ということから、渋滞を引き起こさないためにはどうすればよいのか、といったことを具体的な事例を用いながら、説明してもらった。参加者からは、アスペルガーの子が同時に2つのことができない、IN とアウトの関係で渋滞が起こっている等々の話題が出され、ワーキングメモリーの話題を含めて討論を行い、盛り上がった。</p> <p>指定討論者は、千野直仁氏 (愛知学院大学)、河合優年氏 (武庫川女子大学教育研究所)、鈴木平氏 (桜美林大学)、司会は岡林春雄 (山梨大学) であり、参加者は延べ 30 人であった。</p> <p>成果： 上記ワークショップは、ダイナミカルシステムを考えるうえでも重要な意味をもっている。渋滞はドライバーがちょっと無理することによって突然起きる。そして、メタ安定状態は突然崩れる。これは、人間の発達を考えるにあたっても同様である。ダイナミカルシステムという観点が発達を考える際、ぜひとも必要な知見となるであろう。上記の話題は、複雑系の視点から提出されているが、認知症やうつ病のような病気だけでなく、子どもの成長、精神的な健康を考えるうえでも重要な視点である。将来的には、人間のダイナミカルシステムのモデル化を目指してみたい。そのためにも、本研究会は、日ごろから研鑽をつみたい。</p> <p>本研究会は、上記ワークショップ以外にもメンバーで会合をもち (9月15日)、方向性を確認している。さらに、地方で研修会を開き (7月25日)、ダイナミカルシステム理論の向上に努めている。</p>		